

地域医療連携室だより

～ 第 5 号 ～

大阪府立十三市民病院

地域医療連携室 室長 挨拶

春暖の候、貴院におかれましては益々御盛栄のこととお喜び申し上げます。

今年度初めての「地域医療連携室だより」では新しく赴任しました 8 名の医師の紹介と看護部の活動を紹介させていただきます。また、当院ホームページのトップページにある広報誌「地域医療連携室だより」をクリックしていただくと、バックナンバーを含めて閲覧可能ですのであわせてよろしくお願い申し上げます。

当院は「急性期病院として地域連携を強化し、信頼される病院」を目標としています。4 月から専従看護師と事務職員が 1 名ずつ新たに地域医療連携室に配属となり、①地域の先生方からの診察・検査および入院依頼への迅速な対応、②専従の看護師と医療ソーシャルワーカーによる入院早期からの退院支援、③先生方および地域住民に向けての広報誌作成・セミナーや健康講座開催、④医療機関訪問などを更に精力的に行っていく所存ですので、ご要望やご質問を地域医療連携室までお寄せ頂ければ幸いです。

特に今年度は、地域医療機関、療養施設との情報交換の機会を増やし、これまで以上の緊密な連携を図り、地域全体でより効果的な医療を提供できるように地域医療連携の強化に向け取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



副院長 兼 地域医療連携室 室長
倉井 修

新任医師紹介

< 整形外科 >

初めまして、4 月から十三市民病院へ赴任しました寺井彰三郎と申します。2004 年に愛媛大学を卒業し、初期研修を終了後、兵庫県で救急医として勤務しておりました。2010 年から本来専門とすることを考えていた整形外科へ移り、大阪市大病院整形外科(市大整形)のスポーツグループでスポーツ整形を専門として学んでまいりました。



整形外科 寺井 彰三郎

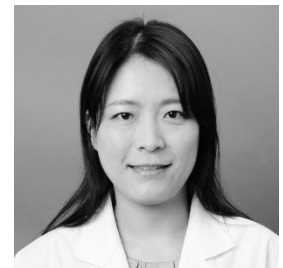
われわれ市大整形のスポーツグループの対象疾患は全てのスポーツ障害・外傷であります。特に膝関節領域の外傷・障害を持った患者が多く、靭帯損傷、反復性膝蓋骨脱臼、離断性骨軟骨炎、半月板損傷、外側円板状半月、進行期までの変形性関節症、関節内遊離体などが手術になる可能性が高い疾患となります。また、スポーツ整形の症例はリハビリとは切っても切れない関係にあります。というのも手術に至るケースはわずかであり大多数は保存的加療でよくなりますし、手術症例も手術しただけではスポーツには簡単に復帰できないからです。したがって理学療法士の人数が限られている十三市民病院だけでは、全ての術後症例のリハビリまでしっかりとケアすることはできません。そのため、術後患者に関して、近医と連携を取りながら協力をいただき、患者のスポーツ復帰を少しでも早く達成させるよう努力します。

また、院外活動として関西学院大学アメリカンフットボール部のチームドクターを担当させていただき、今年で9年目になります。他にも高校野球の甲子園救護班や世界スーパージュニアテニスの会場ドクター、セレッソ大阪のゲームドクターなどフィールドワークを積極的に行っています。チームドクターの役割とは、選手が現場でケガをしたときに初期対応をするだけでなく、通常のメディカルチェック、遠征帯同時の体調管理、時には精神面でのサポートも必要とすることがあります。これらの活動はライフワークとしてこれからも続けていこうと思います。

私自身、手術の技術も知識もまだまだ未熟で修行中の身であります。少しでも地域医療に貢献できるようご指導、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

<泌尿器科>

初めまして。このたび4月1日から十三市民病院泌尿器科に赴任いたしました西原千香子と申します。平成17年に山口大学を卒業し、山口県内での初期臨床研修終了後に、大阪市立大学の泌尿器科に入局しました。大阪市立大学附属病院、吹田市民病院で泌尿器科医としての研修を受け、平成21年に大阪市立大学大学院へ進学しました。大学院では膀胱癌の抗がん剤治療に関わる研究を行ってきました。その後平成26年より大阪市立総合医療センター泌尿器科にて泌尿器科全般の治療を行ってきました。



泌尿器科 西原 千香子

高齢化に伴い、前立腺癌や尿路上皮癌など泌尿器の悪性疾患も増加傾向にありますが、近年前立腺癌に対するロボット手術や放射線治療や腹腔鏡手術などの技術の進歩や、分子標的薬など新規薬剤の登場など、治療の選択肢も増加しています。基幹病院での研鑽を生かして、当院と地域の医療機関との連携により、個々の患者さんに最適な治療をお勧めしていきたいと考えております。

また排尿に関して気になることがあっても、泌尿器科受診をためらう患者さんもおられますが、患者さんの訴えに真摯に向き合い積極的に診療していきたいと思っておりますので、いつでもご相談いただければ幸いです。

患者さんや地域の先生方に頼りにしていただけるような医療を提供できるよう努力いたしますので、御指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

<呼吸器内科>

2016年4月より内科・呼吸器内科の医員として十三市民病院に赴任いたしました山入和志(やまいり かずし)と申します。

和歌山県出身で、2011年に名古屋大学を卒業しております。

臨床初期研修・呼吸器内科としての後期研修を東淀川区の淀川キリスト教病院で行いました。分野としては呼吸器感染症について興味を持ち診療にあたっております。

およそ4人に1人が65歳以上である現在の超高齢社会に至っている日本において、高齢者の肺炎は最も頻繁に遭遇する疾患の一つです。我が国の死因の第3位が肺炎となりましたが、そのうち約96%は65歳以上の高齢者の方が占めているとされます。また今日でも、年間で約2万人の方が結核を発症しております。

今後も進行が予想されている高齢社会において、呼吸器感染症に罹患する患者さんは、今後ますます増加していくと考えられます。

病院の医師だけではなく、コメディカルを含めた病院全体、また開業医の先生方・地域包括の皆様を含めて地域全体で対処しなければ、乗り越えていけない問題と考えております。

地域全体でのチーム医療の一員として、ご迷惑をおかけしないように、またできる限り少しでもお役にたてるように邁進していきますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科 山入 和志

<消化器内科>

平成28年4月より大阪市立十三市民病院の消化器内科に赴任致しました小野洋嗣です。薬学部を卒業後(薬剤師免許取得)に、島根大学医学部に学士編入という少し変わった経歴です。平成21年に島根大学医学部を卒業後、神戸市立医療センター西市民病院で初期研修・後期研修を行いました。西市民病院では消化器領域の救急疾患を始め、多くの症例・緊急内視鏡治療を経験することができました。平成26年からの2年間は、三田市民病院で消化器内科医として幅広い知識とともに消化器領域の基本的な手技の習得に努め、特に上部・下部消化管のESDの研鑽を積んで参りました。



消化器内科 小野 洋嗣

十三市民病院では、診断に苦慮する症例や稀少疾患、また多くの肝疾患の診療に関わっていきたいと思っております。

当院の消化器内科では最も若手になりますので、足繁く患者様の元に通い、何事にもフットワーク軽く対応することにより、少しでも良質な医療を提供できるように努力致します。若輩者ではございますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

<糖尿病内科>

平成 28 年 4 月より当院糖尿病内科へ異動となりました。

東京の練馬区出身であり日本大学医学部を卒業後、東京女子医科大学病院にて初期臨床研修を修了しました。平成 23 年 4 月から大阪市立大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学(第二内科)へ入局し、平成 24 年 4 月から同局の大学院へ進学し糖尿病診療に従事して参りました。糖尿病診療の基礎から患者指導、妊娠糖尿病や周術期管理、インスリンポンプ: CSII

(Continuous Subcutaneous Insulin Infusion)導入などを経験・勉強させて頂き、検査では持続血糖モニター: CGM (Continuous Glucose Monitoring)、頸動脈エコー、血管内皮機能検査: FMD (Flow Mediated Dilation)、人工膵臓を用いたインスリン抵抗性を測定するグルコースクランプ検査を担当しております。

大学院では糖尿病動脈硬化グループにて臨床研究を行い、「Leptin is Associated with Local Stiffness of the Carotid Artery in Overweight Patients with Type 2 Diabetes.」で論文を発表することができました。

平成 26 年 4 月に泉大津市立病院へ異動後、院内糖尿病委員会の委員長を2年間務め、内科診療に加え、他科患者の血糖管理や院内でのスタッフ指導、地域医療の促進に取り組み、泉大津市で初の CSII 導入を行うなど積極的に臨床に力を入れておりました。

糖尿病は急性期治療より予防としての慢性期治療が中心ではありますが、患者さん一人一人に対して、生活や全身状態に合わせた適切な管理と教育をすることで起こりうる合併症を減らし、地域医療へ貢献したいと思っております。若輩者ではございますが今後ともよろしくお願い致します。



糖尿病内科 沼口 隆太郎

<産婦人科>

はじめまして。このたび 4 月より大阪市立十三市民病院のレジデントとして配属になりました西居由布子と申します。私の経歴ですが、平成 22 年に大阪市立大学を卒業後、和泉市の府中病院で2年間初期研修を修了しました。研修先の病院は年間の分娩数も多く、学生時代より興味を抱いていた産婦人科学に更に魅力を感じ、研修を半分終える頃にはすでに産婦人科医になることを決めていました。初期研修修了後、出身大学である大阪市立大学産婦人科教室に入局し、大学病院で2年間、和泉市立病院で2年間勤務し、この4月に当院に赴任してまいりました。

生まれも育ちも大和川より南で、医師になって働く病院も大阪の南の方が多かったためか、この淀川区という地で働くことに少し緊張しているのが正直なところです。それぞれの地域によって病気や患者さんの特色があると思いますので診療を行いながら徐々に慣れていければと思っております。

昨年、日本産科婦人科学会の産婦人科専門医を取得、この4月には日本がん治療認定医機構の癌治療認定医を取得いたしました。直近の3年間は婦人科をメインに診療してきたということもあり、産科のある当院での診療は新たな発見や学びも多く、医師としての未熟さを痛感している次第です。

すでに4月より外来診療を任されており、地域医療の先生方からのご紹介もいくつかお受けさせていただいております。産科症例、婦人科症例とも誠意をもって御対応させていただきたいと思っておりますので、今後ともご紹介のほどよろしくお願ひいたします。

また、何分にもまだまだ未熟者でございますので、至らぬ点もあるかと存じますが、御指導、御鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。



産婦人科 西居 由布子

<呼吸器内科>

平成28年4月より呼吸器内科レジデントとして赴任しました、高木 康裕と申します。私は平成26年に大阪市立大学医学部を卒業した後、大阪市生野区の育和会記念病院にて初期臨床研修を行いました。研修においては、呼吸器内科、循環器内科、外科、整形外科のローテーションに加え、特に4ヶ月間の二次救急、1ヶ月間の救命救急センターでの三次救急の研修を通して初期救急対応を学ぶことが出来たと自負しております。呼吸器内科を専門として選び、初期研修に引き続いて地域基幹病院でcommon diseaseから専門性の高い疾患まで幅広く経験をしたいと考え、当院での勤務を希望させて頂きました。現在特に興味を持っているのは感染症、喘息・COPDといった閉塞性疾患といった分野です。当院は結核病棟を有しており、結核医療を豊富に経験できることを楽しみにしております。少しでも地域医療に貢献出来る様、精進いたしたいと思っております。ご助力の程よろしくお願い致します。



呼吸器内科 高木 康裕

<小児科>

はじめまして。このたび4月1日より大阪市立十三市民病院小児科に赴任いたしました山本菜穂と申します。私は大阪で生まれ育ち、関西医科大学を卒業後、大阪市立大学医学部附属病院で2年間の初期臨床研修を行いました。初期研修では憧れの南国リゾート・石垣島に派遣され、職員住宅に住み着いたヤモリや偶然遭遇した台風に悩まされながらも県立八重山病院小児科で楽しく研修させて頂きました。その中で地域医療における小児科の重要性を実感しました。



小児科 山本 菜穂

2014年に大阪市立大学医学部附属病院小児科に入局し、その後は大阪市立住吉市民病院、大阪市立総合医療センターで主に新生児医療に従事した後、医療法人宝生会 PL 病院小児科で、様々な小児疾患を経験させて頂きました。

十三市民病院でも一般小児外来、乳児健診、予防接種、新生児医療を担当させて頂いておりますが、流行疾患に少なからず違いがみられ、大阪府内という狭い中での北と南での地域差に驚いております。実際の日々の診療では、赤ちゃんや子供たち、ご家族の方々にたくさんの貴重な経験をさせて頂き、患者さんを教科書として学ばせていただいております。

今後はできるだけ早く現在の環境に慣れ、1人でも多くのお子さんやご家族の笑顔が見られるように、目の前の子供たちに対してまっすぐな態度で診療していきたいと思っております。また、ご紹介いただきました患者さんについての経過報告につきましては、できるだけ早く診断してお返しできますようにと心がけております。

小児科医としては、まだまだ走り始めたばかりで未熟で至らない点は多々あると思っておりますが、少しでも役立てるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

<看護部紹介>

いつも十三市民病院に患者さんをご紹介していただきありがとうございます。

当院では市民病院として地域の方に寄り添う姿勢を大切に各科が専門性の高い医療を行っています。地域医療機関の先生方からの紹介や二次救急の受け入れ、急性期で重篤な状態にある患者さんから慢性期に移行前の患者さんまで幅広いケアを提供しています。

- 私達看護部は①患者さんの人権を尊重し、QOLの向上を目指した看護
②患者さんの立場に立った優しさと思いやりをもった看護
③専門職としての誇りと自覚を持ち主体的な看護の実践
④地域のニーズに合わせた継続看護

この4つを看護部の理念として看護を実践しています。

看護職員は本務職員 157名 有期雇用職員 16名で構成され、病棟数は5病棟ですべて10:1の看護体制で行っています。「産科・婦人科・消化器内科・外科・整形外科・内科・糖尿病内科・循環器内科など」16診療科に対応しています。

また、地域医療連携室の強化として今年度に看護師を1名追加配置し、合わせて2名の看護管理者(看護師長・副師長)で地域の先生方の紹介の患者さんのスムーズな受け入れや退院の支援をMSWと共にを行っています。加えて病棟・外来と地域を繋ぐという役割の強化も図っています。

当院には現在認定看護師として看護管理者・感染看護・手術室看護・糖尿病看護・がん化学療法看護の5名が在籍しています。今年度は摂食・嚥下障害看護・認知症看護の認定看護師が誕生する予定です。認定看護師が公開講座を開催し、地域の看護師さんと意見交換し交流を深めてきました。今年度も昨年に引き続き、認定看護師による公開講座を開催する予定で地域の看護師さんと共に患者さんによりよい看護を提供していきたいと考えています。

最後に地域の先生方、住民の皆様に信頼されるような病院を目指してスタッフ一同頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

十三市民病院 いきいき健康セミナー

日 時 平成28年7月19日(火) 14:00~15:00
場 所 十三市民病院 2階 集団指導室
演 題 「転ばぬ先のコツコツ体操」 ~あなたの足元 大丈夫~
講 師 理学療法士 浦田 隆史

十三市民病院 市民公開講座

日 時 平成28年7月30日(土) 10:30~12:00
場 所 十三市民病院 9階 すかいルーム
演 題 1 「誰にも聞けない痔の話」
講 師 外科部長 高塚 聡
演 題 2 「そけいヘルニア(脱腸)ってどんな病気? 治療は?」
講 師 外科副部長 堀 高明

編集

大阪市立十三市民病院
地域医療連携室

〒532-0034

大阪市淀川区野中北 2-12-27

代表電話：06-6150-8000

直通電話：06-6150-8067

直通FAX：06-6150-8686